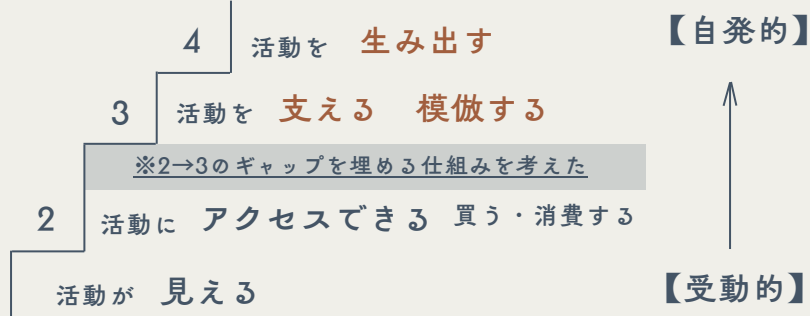
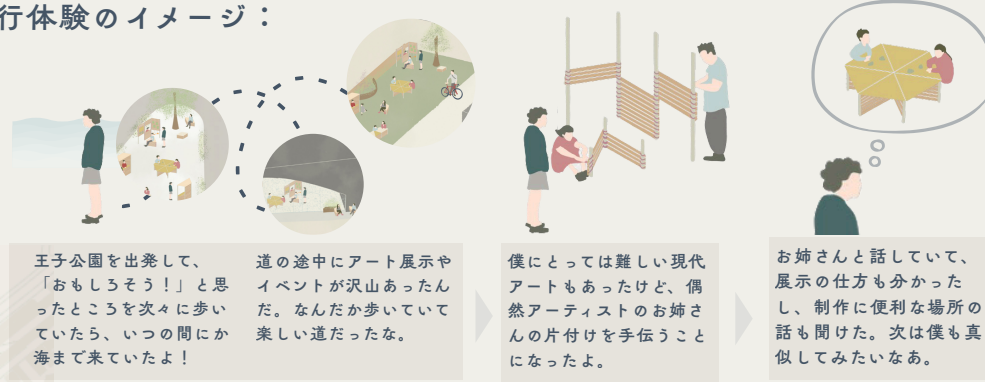


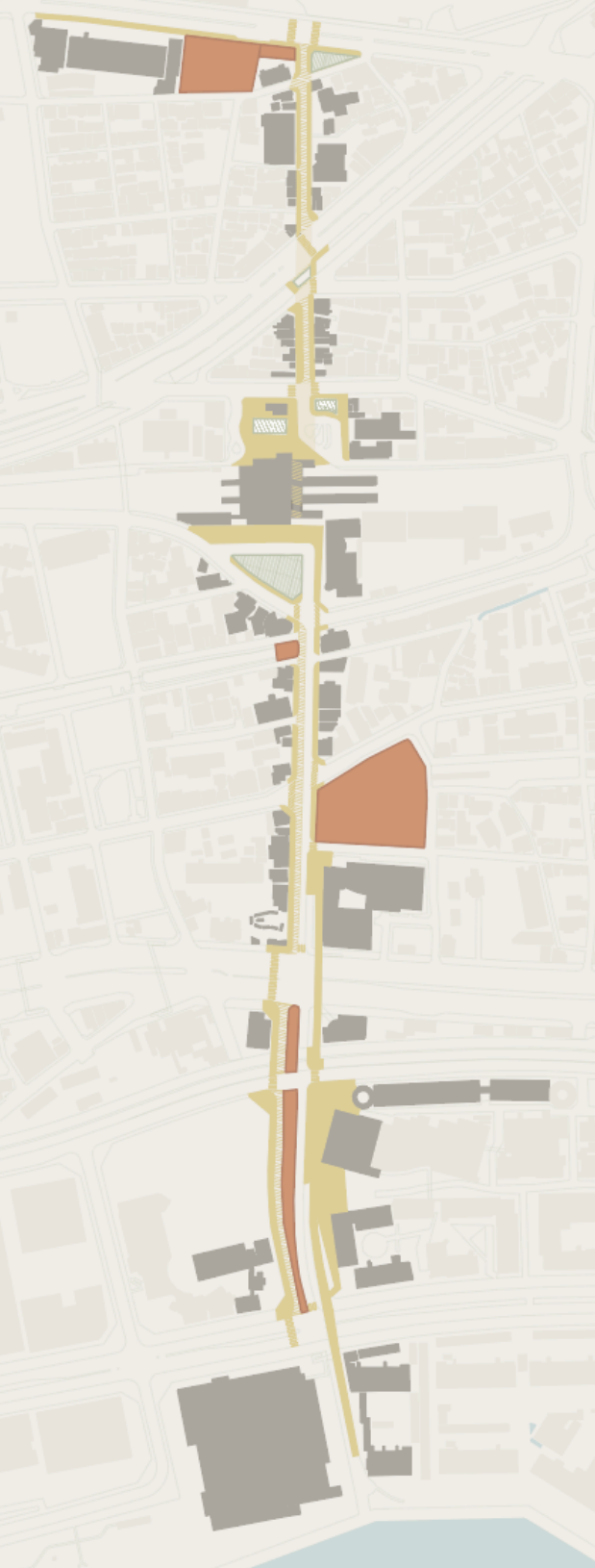
つなぐ さんかく

2.ビジョン アートは他のコンテンツに比べて、見る人の主体性を必要とする。
しかしその分、鑑賞する人が制作する人になるハードルは、他のコンテンツよりも低いといえる。活動が人を呼び、人が活動を呼ぶ循環をつくる。

歩行体験のイメージ：



1.対象範囲



王子公園を出発して、「おもしろそう!」と思ったところを次々に歩いていたら、いつの間にか海まで来ていたよ!

道の途中にアート展示やイベントが沢山あったんだ。なんだか歩いていて楽しい道だったな。

僕にとっては難しい現代アートもあったけど、偶然アーティストのお姉さんの片付けを手伝うことになったよ。

お姉さんと話していて、展示の仕方も分かったし、制作に便利な場所の話も聞いた。次は僕も真似してみたいなあ。



3.文化を生み出す仕組み

【養生具+展示】の収集を行った。



フランスにおけるマルシェの建設方法に着目した。道に直接空いた穴にポールを挿し、即座に骨組みを作る仕組みは、上記の【養生具+展示】のあらゆる道具を一つに集約できると考えた。



4.提案

ミュージアムロードにポールを挿すための穴を一定間隔に空ける。ポールも壁となる木板も市民の所有物だ。子供も大人も、手軽に自分たちの空間を作ることができる。



灘の伝統工芸「灘の酒樽制作技術」に着目し、その木板を再利用する

5.課題の整理

現状の課題「止まってしまう屋外表現」

- 屋外展示物（柵・机・ボード等）は地面固定ができないため、安全面を理由に前例のない表現が承認されにくい
- 屋外占有には消防・警察への事前届出が必須で、当日の創発的な展開や即興的なコラボレーションが生まれにくい
- 事前計画の負荷が高く、インディーな試みよりも、対価を前提としたプロジェクトに偏りやすい
- イベント数が増えても、形式や見た目に変化がなければ陳腐化が進行する
- 限定的な補助金スキームでは、ノウハウや物的アセットが蓄積されにくい

提案の「規格でひらく余地」

- モジュール寸法と固定方法を規格化し、安全性を担保したうえで申請・運用コストを低減する
- 用途や組み替えに余地を残す設計とし、使い方の更新によって陳腐化を回避する
- 小規模な実装から段階的に導入し、検証を踏まえて数量や展開を拡張できる仕組みとする

6.直感的な回遊を可能にする小さなアイデアたち①



Before

木々がうっそうとしており、美術館側に抜けにくい。

ミュージアムロードの両脇の公園から活動を感じない。



After

神社の再配置

公園と美術館がつながる

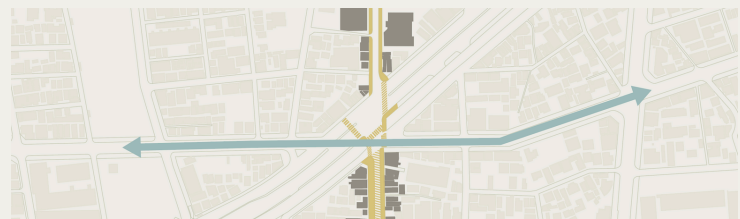
王子公園に面する高品質な住宅と、その足元部分の空地进行公園と接続し、展示や制作に使える空間とする。

活動が外に漏れ出し、寄ってみたいくなる場所になる。

Image

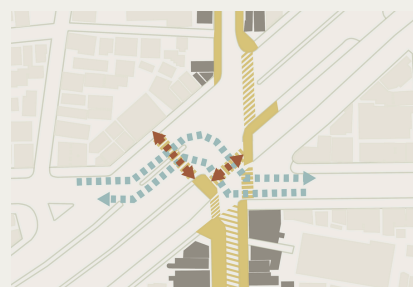


6.直感的な回遊を可能にする小さなアイデアたち②



Before

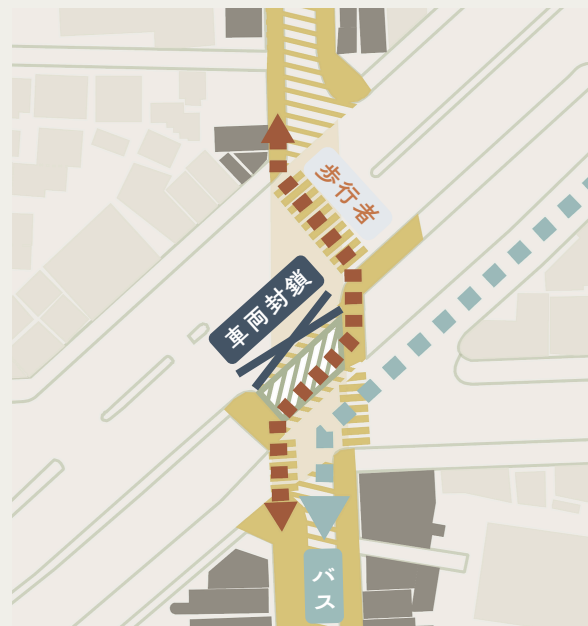
広域で見ると東西を結ぶ重要な道路の一つ。



車から見ると道の先が見えない。

横断歩道が車道に対して縦横無尽に

走っていて危険。



After

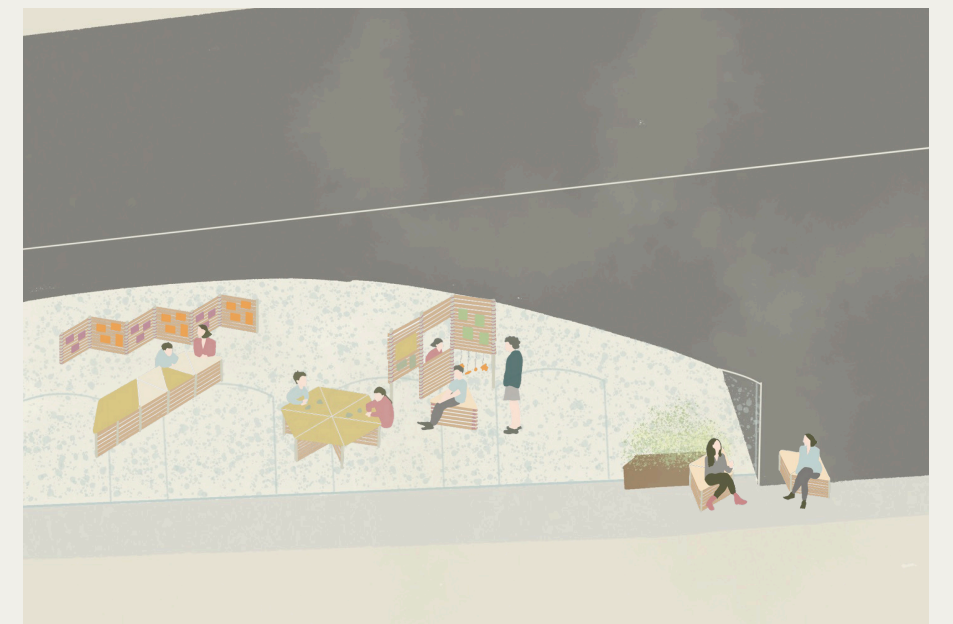
将来人口や車の数が減ってきたら、
拱橋下を広場に。

北側にガラスを貼って、
美しい構造美を隠さず、
風から守ってもらう。

半屋外の空間で
展示したり、制作をしたり、
コラボレーションが生まれる。

バスの待ち時間にフラッと鑑賞。

Image



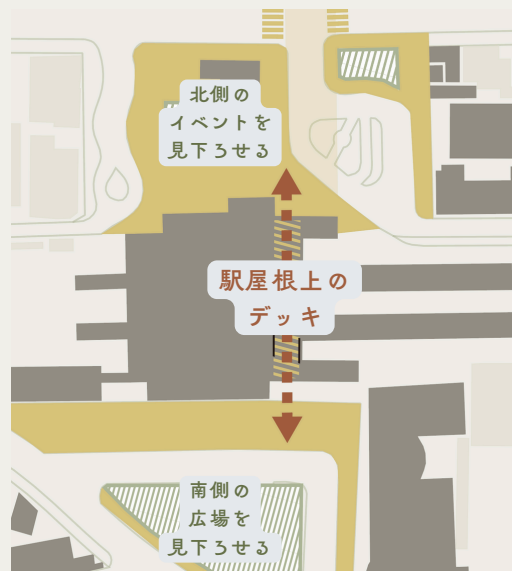
6.直感的な回遊を可能にする小さなアイデアたち③



Before

駅が南北のミュージアムロードの軸を分断している。

駅の向こう側の様子が読み取れないため、階段を登って降りてまで反対側に行くのが億劫。動機が生まれにくい。



After

南北の軸を受け止める
駅上のデッキ

北の灘駅前拱橋・南の臨港線跡からの見る見られるの関係をつくる。

イベントや屋外の活動が増えても、みんな雨宿りできる。

Image



6.直感的な回遊を可能にする小さなアイデアたち④



Before

駅前の好立地だが高度利用がされていない。
駅を出て横方向の視線の抜けがなく、ミュージアムロードの存在を感じにくい

After



岩屋駅横の区画との一体的な再開発により、灘駅からのアイストップに。
低層部では岩屋駅前から美術館側への視線の抜けを作る。

駅南のHAT神戸は、電動自転車や電動キックボードでの回遊がちょうどいいスケール



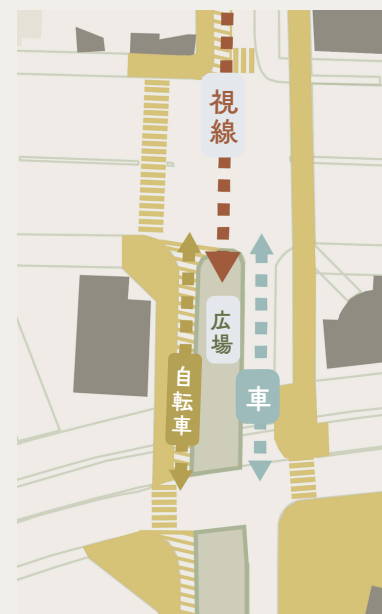
6.直感的な回遊を可能にする小さなアイデアたち⑤



Before

視線が高速道路に遮られて、美術館の存在に気が付きにくい。

高速道路を抜けた先はスケールが大きく、時速5kmの歩行者では退屈する。



After

灘駅やBBプラザから見下ろせる中央分離帯と車線をダイエットし、広場にする提案

将来、マイクロモビリティをパッと停めて、展示を楽しんだり、くつろいだりすることができる

